

## ✈ 海外生活 だより

ソウル事務所

# 一番近い外国(日本に似ている国?) での生活

ソウル事務所次長 大西 公一郎(総務省派遣)

韓国、ソウルで暮らして丸1年。東京と変わらない街並みや生活に、ここが外国だとは感じないほど(看板は漢字ではなくハングルだけど)ですが、それでも出会う異文化の中で日本に欲しいと思ったもの、違和感のあるものをご紹介します。

## 1 日本に欲しいもの

### (1) 何回でもおかわり文化

焼き肉を頼めばサンチュやキムチはもちろん、チゲ(味噌汁)など多くのおかずが付く韓国料理。これらはおかわり無料ですが、ハンバーガー店で注文中に後ろからアジュンマ(おばさん)が「コーラお替り」といってカップを差し出してきたのはビックリ。日本から進出したカレー店でルーのおかわりがタダなんてことも。「おかわり有料」が日本を訪れる韓国人の不満なものも仕方ない?

### (2) どこでもカードでOK

韓国では、国が店の売上げ把握のためにクレジットカードでの支払いを奨励(カードで支払った金額の一定額を所得税から控除)しており、制度上は1,000ウォン(約70円)以上でカード払いOK。コンビニやファストフード店、病院などほとんど現金を使う機会がない(屋台での買い物、割り勘くらい)ため、いまだに韓国語での数字の聞き取りが苦手です。

### (3) なんでも配達(ペダル)

電話一本で無料で配達します。ピザ屋だけでなく、飲食店、ハンバーガー店(店頭には宅配用バイクが)、スーパーも(米袋を眺めていると「家はどこ?」と声が掛かってビックリ)。また、大きな公園や河川敷で寛ぐ家族やグループのランチは「配達」です(不慣れな私たちは弁当持参でし

たが)。だだっ広い公園の大勢の中で、どうやって「注文した人」を見付けるのか不思議です。

### (4) ストレスの少ない公共交通システム

人口の半分が集中する首都圏では、地下鉄とバスが市民の足(車通勤はステータスですが大渋滞に覚悟が必要です)。駅・バス停では、あと何分で到着するかを電光掲示が教えてくれ、イライラしながら待つということがありません(韓国人の「早く早く」精神に合わせたもの?)。その他、バス専用レーンやバス・地下鉄の乗り継ぎに追加料金が不要など、公共交通の利用を促進しています。

### (5) トンカツもハサミで

トンカツを子供のために箸で切り分けていると、店のおばさんが「見てられない」とやって来て、ハサミでジョキジョキと。あっ気にとられましたが、いまでは「ハサミちょうだい」と声を掛けるようになりました。ちなみに、キムチ、冷麺など切る対象は様々です。

その他、ソウルの中央を横断する漢江(ハンガン)とその河川敷公園や自転車ロード、河川再生のモデルや市民の憩いの場として有名な清溪川、冬にはソウル市役所前広場にスケートリンクが出現!など、韓国国民の半分が集中する大都市に整備された多くの憩いの場は魅力的です。

## 2 怖いもの

### (1) もう日本の車は怖くない?

赤信号でも「常に」右折可能なうえ車優先社会のため、横断歩道や信号があっても横断には慎重さと大胆さが必要です。日本と逆の右側通行ということもあり来韓当初はヒヤリを連発!。Uターンにも独特のルールがあり、大型バスが数台続け

【生活費の高さ】韓国では、交通費（地下鉄初乗り約80円。タクシー初乗り約200円）や外食（日本の7割程度）、映画（約700円）などの娯楽費は安く、旅行者に「韓国は物価が安い」という印象を与えます。一方、住居費は高く、幼稚園を含む教育費（わが家は約6万円×2人）のほか、食料品など生活物資の値段は日本と変わりません（卵10個約170円、牛乳1ℓ・ガソリン1ℓ約140円、ビッグマック約270円）。この1年で消費者物価は年4%、特に食料品は7.9%上昇し、市民生活を圧迫する深刻な政治課題です。

てUターンして道路を塞ぐ光景は壮観(?)です。

### (2) 酒権（チュクオン）、飲み文化

酒席文化です。韓国では、「まず飲んで仲良くなってから仕事の話」といった雰囲気の色濃く残っており、その酒の場を取り仕切る権限が「酒権」。主に偉い人が、誰がどのように飲むかを指示し、爆弾酒（焼酎をビールで割ったもの）を作り配るのも酒権保持者の役割です。下戸の私は韓国側から何度もクビを宣告されました。この社会で下戸はどうやって生き延びているのでしょうか。

### (3) 監視カメラは伊達じゃない

ソウルには10万台以上の監視カメラが設置されています。ソウル市交通センターでは、監視カメラによって渋滞など道路状況の確認に加え、路上駐車取締りも行っています（カメラでのチェックだけで罰金の納付書が送られます）。また、区役所では区内の監視カメラを統合運用しており、警察官とともにモニター室で24時間チェック。深夜に女性が独り歩きできるほどの治安の良さにつながっています。

その他、街に溢れる若い警察官。本気で閉まるエレベーターや地下鉄のドア（駆け込み乗車が少ないのはそのせい?）。まだ座っていないのに急発進し、停車前にはドアの前に立たないと降りられないバス、つっけんどんで無表情のハンバーガー店の店員など、日本に似ているが故に、日本と同じ感覚でいると驚くことが多々あります。

## 3 不思議なもの

### (1) 地下鉄の車内販売

地下鉄では、キャリーバックを引くおじさんが、突然、商品（傘やマフラー、CDなど多彩）を手に大声で物売りを始めます。意外な売れ行きに驚くのですが、身近に「安いから買ったよ」という人も多くて二度驚きました。実は交通公社では車内販売を禁止していて、消えゆく光景だそうです。

### (2) 激しい古新聞回収競争

朝、多くの人が無料新聞を手手に地下鉄に乗り込みますが、駅や車両にはゴミとして散乱する様子は見られません。なぜならタワシ頭のアジュンマ（おばさん）やアジョシ（おじさん）が人混みを掻き分けて棚の上の新聞をすかさず集めるから（古紙業者に売却）。手に持っていた新聞を「いらぬのか」と取り上げられそうになったことも。

### (3) ストレートな美容整形広告

韓国といえば美容整形が有名ですが、そのオープンなこと。地下鉄や街の広告パネルに「ビフォー、アフター」の比較写真が顔を隠すことなく掲げられ、つい見入ってしまいます（「就職活動前に」というキャッチコピーで男性向けもあります）。

### (4) 街に溢れる日本語

ソウルでは至る所で日本語に出会います。空港やホテルだけでなく、タクシーや飲食店、ショップでも日本人だと分かるや否や、すかさず日本語で対応されてしまいます（飲み会の予約にドキドキしながら電話をしたのに日本語で返され拍子抜けしたり）。観光客で賑わうソウルの明洞（ミョンドン）では、日本語での呼び込みが飛び交い、韓国にいることを忘れるほどです。

【日本語学習の裾野の広さ】韓国には約96万人の日本語学習者がいます（約90%が中高生）。高校では第二外国語が必修であり、日本語選択者は最も多い63.4%（2009年。中国語27.2%）。また、中学校でも2001年から日本語が第二外国語となりました。このように、毎年約2,800の高校・中学で約3,000人の日本語教師の下、約87万人が学んでおり、韓国の若者が日本への理解を深める貴重な機会となっています。